

主な活動

②

情熱のオペラ！

～城山に響け！ 愉快的仲間達がお届けする日本の名曲、世界の名曲～

この催しは令和3年度、地域づくり活動協議会・生涯学習推進員・40周年記念事業実行委員会・公民館の四者共催の事業として、11月13日の土曜日に城山小学校体育館を会場にして開催され、来場者は164人にのびりました。

東京を中心に活躍している藤岡市出身のオペラ歌手新井健士さんと、新井さんのお仲間を招き、校区の皆さんに一流のオペラの歌唱に触れていただきました。

出演はバリトンの新井さん、ソプラノの宇佐美弘枝さんと箕浦綾乃さん、ピアノの阿久津百合さんの4名です。



第1部は、『ふるさと』など唱歌や童謡のメロデーで始まり、親しみやすい日本語の曲が続きました。シャンソン・コミック『電話』は主人公の喜怒哀楽の感情をコミカルに描いた作品です。カール・ツェラー作曲のオペレッタ『小鳥売り』より『郵便配達のカリステル』。これはワルツの曲が必ず入っている愉快で楽しい作品です。財津和夫作詞作曲『切手のない贈り物』はNHKみんなのうたの中で人気を博した一曲です。第1部の締めくくりは『夢見たものは』。この詩を作った立原道造さんは病状が進行していて24歳で亡くなる1年前、婚約者と過ごす幸せな時間をこの詩にしたためたとされており、「夢見たものは ひとつの幸福 ねがったものは ひとつの愛 それらはすべてここにある」愛する人と過ごす幸せを一途につづった歌です。

第2部はオペラなど外国の歌です。モーツァルトの『トルコ行進曲 二重唱』。ソプラノの2人が「ティアララルン ティアララルン」とアカペラで歌いあげました。次はウンベルト・ジョルダーノ作曲オペラ『アンドレア・シェニエ』より『祖国の敵』。フランス革命前後を舞台に詩人アンド

レア・シェニエの半生を描いたヴェリズモ・オペラ(真実主義のオペラ)です。続いてジャック・オフエンバック作曲オペラ『ホフマン物語』より『オランピアの歌』。オランピアはねじ巻き人形の女の子で、誰かにネジを巻いてもらわないと歌うことができません。そのコミカルさもこの曲の人気の一つです。とても高い音が出てくる超絶技巧を聴くことができました。この後ジュゼッペ・ヴェルディ作曲が3曲続きます。オペラ『トロヴァトーレ』より『恋はばら色の翼にのって』。オペラ『リゴレット』より二重唱『お父さま！…』。オペラ『椿姫』より『乾杯の歌』。この曲は人気が高く、コンサートのアンコールとしてもよく歌われるそうです。今回はソプラノとバリトンで歌いました。



第3部は大ヒットアニメ鬼滅の刃から主題歌二曲『紅蓮華(ぐれんげ)』『炎(ほむら)』を鬼滅の刃の登場人物に扮したメンバーが熱唱しました。『アナと雪の女王』より『Let it go ありのまままで』。『塔の上のラプンツェル』より『輝く未来』。『ハウルの動く城』より『人生のメリーゴーランド～世界の約束』。ラストは『ラ・マンチャの男』より『見果てぬ夢』。とても力強い曲でした。

コロナ禍の波が丁度下降気味になった時に開催できたこのコンサートは、ご来場された皆さんから、生のオペラを間近に聴いて感動したとの反響をいただきました。また、来場者の皆さん同様、出演者の皆さん自身も、「コロナ禍にあってここ城山で開催できたことが、とても励みになった」と感動されていました。演奏の様子は上毛新聞に写真入りで掲載されました。

(城山公民館主事 森 祐樹)